

企画書

キナバル登山とオランウータンと自然を知るボルネオスタディツアー

1. 開催趣旨

2019年から3年近くにわたる新型コロナウイルスにより、長く海外との交流や直接的な往来は制限が続いています。他方、環境教育分野や温暖化に関する課題、国際理解に関する事柄などについては全地球的課題であります。

地球市民として、とりわけこれからの未来を担う青少年期の子どもたちへは、世界に目を向け、世界を知り、世界から日本や自己を見つめることが求められると考えています。

本プロジェクトでは、①体験活動的側面 ②環境学習的側面 ③国際理解的側面から、そして社会教育協会100周年のアニバーサリーイベントとして2024年に元京都大学霊長類研究所所長湯本教授、国際山岳医の稲田氏、山岳ライターでキナバル登山ガイド経験をもつ柏氏のご協力により中学生～大学生を対象としたスタディツアーを企画いたします。

【体験活動的視点】

令和2年度に文部科学省から発表された「青少年の体験活動の推進に関する調査研究」によれば、子ども期の自然体験においては彼らの自尊感情や外向性、社会体験活動においては向学校的な意識に対し有意に良い影響が出ると結論づけられています。さらに報告書には「全ての子どもたちが様々な体験にチャレンジできるよう、周りの大人が『意図的』『計画的』にその機会を設けるようにすること大切」と記載されており、世界と環境に直接向き合い、考えるキッカケを創り、同時に高所登山という未知なるチャレンジは、いま子どもたちに有効かつ必要な選択肢として取り扱われる意義があります。

【環境学習的側面】

2022年、2023年は生物多様性にとっても重要な年だといわれています。今年開催される予定の生物多様性条約第15回締約国会議において「ポスト2020生物多様性枠組み」の採択へ向けた各国協議が進められています。

その中にはターゲット4「種の回復・保全、野生生物との軋轢減」が含まれます。ボルネオでは日本国内でも多くを輸入するパーム油の大規模なプラントが存在します。経済ロジ

ックに乗った大規模な開発はこれまで多くの森林を破壊し、野生生物との軋轢や種を絶滅危惧へ追いやるプロセスが少なからず存在しています。いま、ボルネオでは人の産業と野生生物が持続可能で共存できることを目指した NGO が活動をしています。

いままさに生活を支える産業が生み出す課題を見つめ、そこから次のアクションへ繋げるプロセスを生で見聞きし、体験することは、これからの世界を創る子どもたちの良識ある判断基準を育むうえで欠かせないプロセスといえるでしょう。SDG s の実現へ向けた有力なプログラムと位置付けることもできます。

【国際理解的側面】

新型コロナウイルスによる「半鎖国状態」、ロシアーウクライナ間をはじめとする各種戦闘など、いま世界は不安定さを増しているようにさえ感じます。第二次大戦以降世界の先人が努力してきたことは多様性の尊重であり、国際社会での繋がりや他国文化へのリスペクトにあるように思います。

SNS や各種デジタルコンテンツが充実する今日、海外の様子はリアルタイムでかつクリアに閲覧することも可能ではありますが、やはり世界の「人と関わる」こと、人がそれぞれどのような意思で暮らし、何を大切にしたいと願っているか、についてはやはり現地の人と直接交流する以上の取り組みはありません。地球共生の時代へ向けて、国際理解の側面からも青少年が海外へ出て体験をすることは重要な意味を持ちます。

2. 実施計画

日程：2024年（令和6年）8月16日（金）～23日（金）

行程：①東南アジア最高峰「キナバル山 4,095m」へのアタック

②環境活動NGO“HUTAIN”訪問

③植樹体験やオラウータンのリハビリテーションセンター見学等のスタディツアー

④多様で豊かなボルネオの野生生物観察

※詳細な行動計画案は別紙参照

対象：中学生～大学生

定員：12名

【引率/協力者と役割】

- ①湯本貴和氏（京都大学名誉教授 元霊長類研究所所長）

<https://www.pri.kyoto-u.ac.jp/sections/ecolcons/yumoto/index.htm>

現地通訳およびスタディツアー部分の現地解説および事前レクチャー



- ②稲田真氏（高所医学サポート山サポ代表 医師、DiMM 国際認定山岳医、
日本スポーツ協会コーチ、WMAI インストラクター）

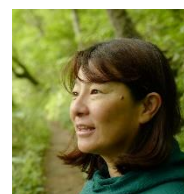
高所医学専門家として登山前後の健康管理や現地での医療判断、医療機関サポート
高所順応や事前トレーニング等への助言、帯同



- ③柏澄子氏（山岳ライター、JMGA 登山ガイド）

プロのライターとして、本プロジェクトの記録および報告作業等
キナバル山ガイド経験あり。

その他高所を含む国内外多数の山岳エリアでの活動、ガイド経験あり。



- ④寺田達也（公益財団法人社会教育協会）

ツアーリーダーおよび旅程管理、調整業務

主催：公益財団法人社会教育協会 社会教育協会

協力：のあつく自然学校（旅行手配）・ボルネオトレイル（現地エージェント）

※10名の参加者に対し2名のスタッフが引率する

※現地には日本語を使えるスルーガイドが付くほか、湯本先生によるアテンドがある

※日本からのアテンダーはJMGA 日本山岳ガイド協会公認ガイドが随行する

※キナバル登山時は現地山岳ガイド3名とポーターが2名随行する

【ご関係のみなさまへ】

上記の開催趣旨により、青少年期の子どもたちにとって、いまこのタイミングにおける海外での強い刺激は必ず子どもたちのこれからに大切な「種」を与えてくれることと思います。しかし、不安定な社会情勢、とりわけ経済面での変動が激しすぎ、通常のボルネオの旅において算出される金額を大幅に上回っています。結果、「行きたいが行けない」家庭が多く存在していることが懸念材料です。

ご関係のみなさまにおかれましては本計画趣旨をご賛同いただき、子どもたちの海外での体験を後押しするような各種サポートをお願いできますと幸いです。

【本件についての連絡先】

公益財団法人社会教育協会
ひの社会教育センター
事業部担当次長
寺田達也
042-582-3136
outdoor@hino-shakyo.com

参考文献

□令和2年度 青少年の体験活動の推進に関する調査研究（文部科学省）

https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/mext_00738.html

□生物多様性ビジネス貢献プロジェクト ポスト2020 生物多様性枠組みについて
（環境省 Web サイト）

https://www.biodic.go.jp/biodiversity/private_participation/business/post2020_target/

□コロナ禍における子どもたちの心とからだ

国立成育医療研究センター コロナ×子ども本部

https://www.ncchd.go.jp/center/activity/covid19_kodomo/report/ondemand20210802.pdf